



みなみっ子

学校教育目標

自立

協働

創造

72号

令和8年10月5日(月)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

1年生の算数って意外に難しい!! 足し算の意味 解けるけどわかっていないことが多い?

小学校の算数で加法(足し算)を指導する際は、単に「計算のやり方」を覚えるのではなく、「どのような場面で足し算(+)を使うのか」をイメージ(文章や図・動作)と結びつけて理解させることが極めて重要です。同じ足し算でも意味が異なるものがあります。そのことをしっかり理解できるかが大切なポイントになります。

※足し算には 合併、増加、求大、順序を含む足し算、異種のもの数量を含む足し算等があります。

1 合併 異なる2つのグループをあわせて1つにする場面です。小学校一年生で最初に学習する加法の概念です。

具体例:「赤い花が3本、白い花が2本あります。合わせて何本ですか。」時間の経過:なし(同時に存在するものをまとめる)

キーワード:「あわせて」「みんなで」

教え方のポイント

①ブロックや具体物を使う:赤いブロック3個と白いブロック2個を用意し、両手で「ガチャン」と中央に寄せる動作(集める操作)を見せます。

②図(集合図)で表現する:2つの大きな輪をかき、それを1つの大きな輪で囲む図を描いて「まとめる」イメージを視覚化します。

2 増加 もともとあった数量に、あとから別の数量がつけ加わる場面です。

具体例:「公園で4人遊んでいます。そこへ2人きました。みんなで何人になりましたか。」

時間の経過:あり(「最初」→「変化(やってくる)」→「最後」) キーワード:「ふえると」「くると」「いれると」

教え方のポイント

①進行のストーリー(動作)を意識させる:「もともからいた人」のところへ「あとから歩いてくる人」の様子を動かして見せます(おはじきをスライドさせるなど)。

②「合併」との違いを意識する:合併は「両方を同時に集める」のに対し、増加は「もとの数に足し入れる」という動きの違いに気づかせます。

3 求大 基準となる数より「〇〇だけ多い数」を求める場面です。子どもが最もつまずきやすい場面の一つです。

具体例:「たろうさんはシールを5枚もっています。じろうさんはたろうさんより2枚多いです。じろうさんは何枚もっていますか。」

特徴:じろうさんのシールが増えるわけでも、2人のシールを合わせるわけでもなく、「じろうさんの持っている量そのもの」を求めます。

つまずきやすい理由:「多い」という言葉につられて意味を理解せずに足し算にしまったり、逆に場面がイメージできなくなったりします。

教え方のポイント

①テープ図やブロックの「1対1対応」で並べる

たろうさん:■ ■ ■ ■ ■

じろうさん:■ ■ ■ ■ ■ + ■ ■

たろうさんと同じ数(5)に、多い分(2)をつけ足すと「じろうさんの数」になることを図で確認させます。

②「～より多い」の言い換え

「たろうさんと同じだけ持っていて、さらに2枚多いんだよ」と伝えます。

4 順序数を含む加法 「〇番目」という位置(順序数)と、「〇人」という量(集合数)をあわせて全体を求める場面です。

具体例:「あきらは前から4番目にいます。あきらさんの後ろに3人います。列は全部で何人ですか。」

式:4+3=7 (答え 7人)



教え方のポイント

①「4番目」の中に何人含まれているか確認する

「4番目」という言葉の中には、あきらさん本人を含めてすでに4人いるということを絵で描いて確かめさせます。

②絵を描かせる(○印など): ○○○●(あきらさんまで4人)+○○○(後ろの3人)

子どもは「4番目」の「4」を単なる数字として扱いがちなので、丸を並べて描かせる指導が非常に有効です。

5 異種のもの数量を含む加法 単位や種類が異なるものを、一つ上の共通した「上位概念(上位のカテゴリー)」にまとめて足す場面です。

具体例:「お皿にりんごが3個、みかんが4個あります。」

果物は合わせて何個ありますか。」

特徴:「3+4=7」の計算自体は簡単ですが、単位が「個」

から「(果物の)個」に再定義されます。

教え方のポイント

①「仲間分け(カテゴリー化)」の確認:「りんごもみかんも、どちらも『くだもの』だね」と、概念のまとまりを意識させます。

②足せないパターンの対比:「りんご3個と鉛筆4本を足して『7』とは言えないよね(共通の仲間がないから)」という話を入れると、概念の理解が深まります。

計算できるだけじゃない! 足し算の「5つの意味」と指導のコツ

単なる計算だけでなく、文章や図・動作と(+)を結びつけて、足し算の本質を理解させよう!

基礎となる2つの「量の結合・変化」

合併(あわせて)

GACHAN!

同時に存在する2つを1つにまとめる
時間経過はなく、両手で集める操作で表現。

増加(ふえると)

最初 PON! 最後

もとの数量にあとから付け加わる
「最初→変化→最後」の時間経過があり、
おはじきの移動で動きを見せる。

子どもがつまずきやすい3つの「応用・概念」

求大(～より多い)

基準より指定の数だけ多い量を求める
テープ図で「同じ数+多い分」の構造を視覚化。

順序数(〇番目)

1番目 2番目 3番目 (4番目だよ) 5番目

4人含まれる
位置の数と集合の量をあわせる
「4番目」の中に本人を含め4人含まれることを丸印で確認。

異種概念(上位カテゴリー)

りんご みかん 果物

違う種類のものを共通の仲間であとめる
りんごもみかんも「果物」という上位概念に再定義して足し合わせる。